

もしもに備えて いのちのボタン

いのちのボタンは、緊急時の連絡先や病名、かかりつけ医などの情報を、筒状の容器(ボタン)に入れて保管しておくことで、万が一のときに備えるものです。

自分が飲んでいる薬の名前を覚えていますか？

家族が通院している医療機関を知っていますか？

緊急時に落ち着いて正確な情報を救急隊員に伝えられますか？

活用の流れ

- 1 救急医療情報用紙を記入。ボタン容器に入れ、冷蔵庫で保管。



- 2 急な病状の悪化で救急要請。



- 3 救急隊員が自宅へ到着。冷蔵庫からボタンを取り出し、情報を確認。



- 4 情報に基づき処置。かかりつけ医療機関とも情報共有し搬送。

ボタンの効果

1 救急搬送のとき

救急隊員が駆け付けたとき、病気やケガの症状で会話がむずかしくなったり、本人や家族が服用している薬や病歴を正確に把握していなかったりするケースも少なくありません。

ボタンがあれば、正確な情報を少ない負担で伝えることができ、また、緊急連絡先に記載された家族とスムーズに連絡を取り合うことができるため、適切で迅速な処置が可能となります。

2 災害による非常事態のとき

災害時には、かかりつけの医療機関が被災し、情報提供が困難となる可能性があります。

ボタンを避難所に持っていくことで、服用薬や持病などの情報を正確に伝えることができ、避難所での適切な治療や健康管理に役立てることができます。



救急医療情報用紙は最新の状態にしておくことが大切です

- ・記載している内容に変更があれば、この裏面の用紙を使って更新しましょう。
- ・専用容器がない場合は無料配布しますので、社会福祉協議会までご連絡ください。

問合せ 地域福祉課 ☎82-0906